

事業概況（創薬）

創薬研究基盤と オープンイノベーションを強化し、 将来の価値創出につながる 創薬パイプラインを拡充する



グループ会社
<https://www.aska-pharma-hd.co.jp/company/company.html>

あすか製薬株式会社
執行役員
創薬研究本部長

渡邊 修造



2025年度は、創薬研究本部にとって、将来の成長を支える創薬研究基盤の強化とAI創薬への取り組みが大きく進展した一年となりました。

当社の強みである産婦人科領域の創薬研究基盤の強化に向け、社内では疾患モデル動物や患者サンプルを活用した評価系の構築を進めました。さらに社外では、岐阜薬科大学に「婦人科疾患創薬共同研究講座」を設置し、アカデミアとの連携を通じた研究基盤の強化を推進しました。

AI創薬への取り組みにおいては、創薬プロセスの効率化・高度化を目的として、AI創薬技術とComputer-Aided Drug Design (CADD) 技術を有する帝人ファーマ株式会社との協業を開始しました。また、Insilico Medicine社との協業を通じて、AIを活用した婦人科疾患領域の新規創薬ターゲット探索を推進するなど、AI創薬技術の導入を着実に加速しています。

パイプラインの拡充に向けては、アカデミアを対象とした研究公募を実施し、応募12件のなかから3件を共同研究案件として採択しました。さらに、新たなモダリティへの取り組みとして、株式会社ペルセウスプロテオミクスと抗体医薬品の創出を目的とした共同研究契約を締結するなど、オープンイノベーションを積極的に推進しました。

新中期経営計画では、「アンメットメディカルニーズの高いスペシャリティ領域における革新的新薬への挑戦」を創薬事業の基本方針として掲げています。長年培ってきた産婦人科、内科、泌尿器科領域における疾患知識と研究基盤を活かし、「世界の女性のQOL（Quality of Life：生活の質）向上への貢献」「革新的新薬のグローバル導出」「アンメットメディカルニーズの解決」の実現を目指します。重点疾患として、

不妊症、子宮内膜症、子宮筋腫、骨盤痛、PCOS*などの産婦人科領域に加え、甲状腺疾患や泌尿器科疾患にも注力し、グローバル展開を見据えた創薬テーマの創出を推進してまいります。

また、本中期経営計画では、創薬プロセスそのものの進化にも取り組みます。当社の強みである疾患ナレッジ、疾患モデル構築技術、患者サンプルを活用したトランスレーショナル研究を基盤としながら、AI創薬による研究効率の向上、イオンチャネル創薬技術の強化、外部連携によるオープンイノベーションの加速、新規モダリティへの挑戦を推進します。国内外の研究機関や企業との連携をさらに深めることで創薬力を拡張し、研究開発のスピードと成功確率の向上を図るとともに、将来の価値創出につながる革新的な創薬パイプラインの継続的な創出に取り組んでまいります。

*多内分泌代謝性卵巣症候群（PMOS：PolyendocrineMetabolic Ovarian Syndrome）へ名称変更される（Lacet, 2026）

イントロダクション

価値創造ストーリー

戦略解説

- 28 投資家の皆さまから寄せられる質問
- 29 専務取締役メッセージ
- 33 中期経営計画2025の振り返り
- 35 会長メッセージ
- 36 中期経営計画2028概要

38 事業概況

38 国内医療用医薬品

41 創薬

43 グローバル

45 アニマルヘルス

47 検査・アラウンドビル

49 財務資本戦略

53 製造資本・知的資本戦略

57 自然資本戦略

61 社会関係資本戦略

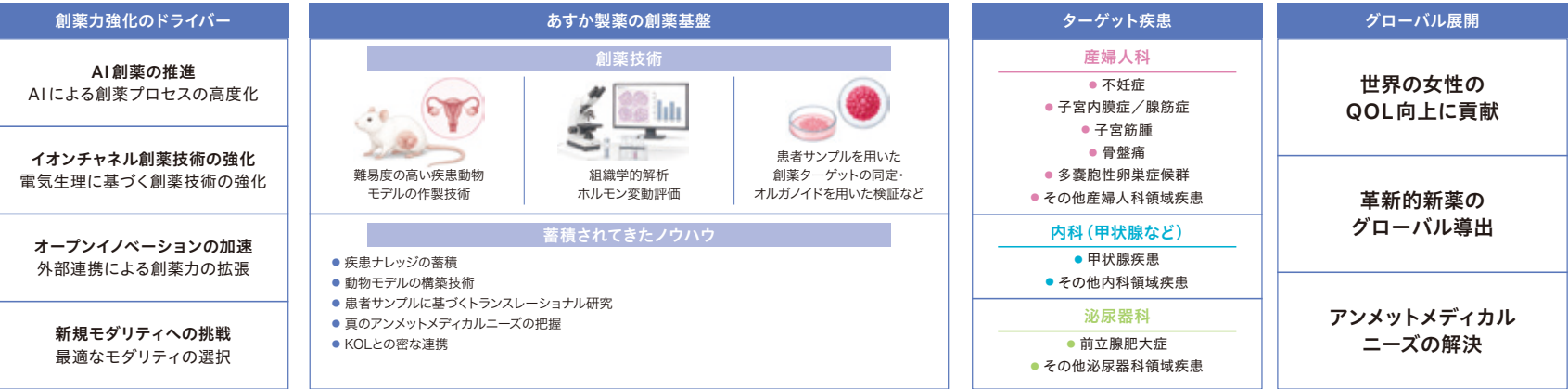
65 人的資本戦略

71 従業員座談会

価値創造の基盤

コーポレートデータ

あすかの創薬プロセス



事業概況

市場環境

- ▶ 婦人科疾患、甲状腺疾患、慢性疼痛などアンメットメディカルニーズの高い疾患領域において、新たな治療選択肢への需要が世界的に拡大している。
- ▶ AI創薬やデータサイエンス技術の進展により、創薬研究の効率化や成功率向上への期待が高まっている。
- ▶ オープンイノベーションの加速により、アカデミアやバイオベンチャーとの連携を通じた研究開発が創薬競争力の重要な要素となっている。

リスク

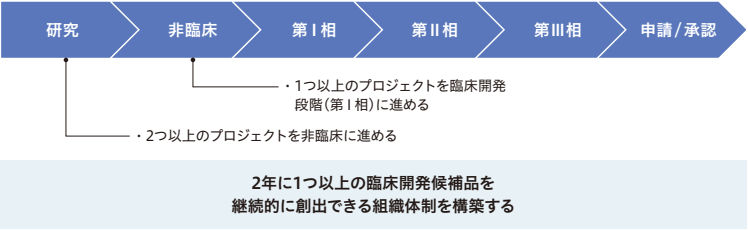
- ▶ 創薬研究は成功率が低く、研究開発の進捗遅延や開発中止による投資回収リスクを伴う。
- ▶ グローバルでの研究開発競争が激化しており、有望な創薬ターゲットや技術、提携機会の獲得競争が強まっている。
- ▶ 各国の規制環境や薬価制度の変化により、開発計画や事業収益性に影響を受ける可能性がある。

機会

- ▶ 当社が強みを有する産婦人科領域を中心に、患者ニーズに根差した革新的新薬の創出による事業価値向上が期待できる。
- ▶ AI創薬、イオンチャネル創薬、抗体創薬などの新技術・新モダリティの活用により、研究開発の成功率向上と新たなパイプライン創出が期待できる。
- ▶ グローバル製薬企業やアカデミアとの連携を通じて、ライセンスアウトや共同開発による収益機会の拡大が見込まれる。

創薬の導入による研究開発の効率化・高度化を進めます。さらに、子宮内膜症やPCOS（多嚢胞性卵巣症候群）などアンメットメディカルニーズの高い疾患領域を中心に、競争力のあるパイプラインの拡充を図り、グローバル市場で評価される臨床開発候補品を継続的に創出します。2028年度までに複数の研究テーマを非臨床段階へ進めるとともに、少なくとも1件を臨床開発段階へ移行し、2年に1件以上の臨床開発候補品を創出できる研究体制の確立を目標としています。

2028年度 研究テーマ進展目標



TOPICS

「AKP-009（ルダテロン酢酸エステル）」は、PCOS（多嚢胞性卵巣症候群）を対象として開発準備段階にある新規治療薬です。卵巣局所においてアンドロゲン受容体（AR）シグナルを抑制することで、高アンドロゲン環境を改善し、停滞した卵胞発育の再開や自然な排卵周期の回復を目指します。中枢神経系への移行性が低く、視床下部・下垂体系への直接的な影響は限定的と考えられている点が特徴です。これにより、排卵障害や無月経、月経不順の改善に加え、多毛やにきびなどの高アンドロゲン症状の改善、さらには妊孕性回復への貢献が期待されています。

イントロダクション

価値創造ストーリー

戦略解説

- 28 投資家の皆さまから寄せられる質問
- 29 専務取締役メッセージ
- 33 中期経営計画2025の振り返り
- 35 会長メッセージ
- 36 中期経営計画2028概要

38 事業概況

38 国内医療用医薬品

41 創薬

43 グローバル

45 アニマルヘルス

47 検査・アラウンドビル

49 財務資本戦略

53 製造資本・知的資本戦略

57 自然資本戦略

61 社会関係資本戦略

65 人的資本戦略

71 従業員座談会

価値創造の基盤

コーポレートデータ